

# 80年代アニメ論・その2

富野由悠季のゆらぎを見る

出口 憲

# 今日の講演内容

- はじめに
- 富野由悠季とは
- 80年代以前の作品を振り返る
- 80年代作品を振り返る
- 富野由悠季のゆらぎ

# はじめに

- 出口は1969年生まれ
- 1980年代は11～20歳だったので、まさしく80年代のアニメを見て育った
- 11歳のとき、ガンダムがブームとなり、中学で友達からザブングル（後述）を見るように勧められ、以後アニメを見まくるようになった
- ビデオデッキを買ってから、放送時間が重なるものはほとんど録画（週20～30本くらいは見ていたはず）

# はじめに

- 「80年代アニメ論・その1」では、月刊OUTというアニメ雑誌を取り上げ、80年代がアニメの成熟期であったことを論じた
- 機動戦士ガンダムを始めとし、作品内容が大きく進歩し、大人を対象とするものに変化
- いわゆる大きいお友達の誕生
- OVAという新しいアニメ制作スタイルが登場し、テレビで出来ない表現も登場

# 富野由悠季とは

# 富野由悠季

- 1941 年生まれ
- 日本大学芸術学部映画科卒業後、手塚治虫の「虫プロダクション」入社
- 後にフリーとなり、西崎義展・宮崎駿・高畑勲などと一緒に仕事をしている
- 初監督作品は 1972 年「海のトリトン」
- 1979 年「機動戦士ガンダム」
- 富野喜幸から富野由悠季へ変更している
- 皆殺しの富野の異名がある

# グッド・ニュース！

- ただいま「富野由悠季の世界」を全国6箇所で巡回開催中

静岡では、

静岡県立美術館（予定）2020年9月19日（土）～11月8日（日）

というわけで、みんなで見に行こう

# 今回取り上げる作品

- 海のトリトン
- ラ・セーヌの星
- ザンボット 3
- ダイターン 3
- ガンダム
- イデオン
- ザブングル
- ダンバイン
- エルガイム
- Zガンダム
- ZZガンダム
- 逆襲のシャア



# 80年代以前の 作品を振り返る

# 海のトリトン

- 1972年の初監督作品
- 「トリトンが正義ではなかった」という衝撃的な最終回が有名（脚本を無視して絵コンテ段階で修正という荒業をした）
- トリトンの敵であるポセイドン族はトリトンのせいで全員死んでしまう
- 女性アニメファンを獲得した作品
- 原作は手塚治虫、後に「テレビまんがのトリトンは自分のつくったものではない」と手塚は発言

# ラ・セーヌの星

- 1975年の作品
- 出崎哲（出崎統の兄）の後任として監督となる
- フランス革命を中心とする話
- 主人公シモーヌはマリー・アントワネットと異母姉妹という設定
- 主人公は悪人を懲らしめる「ラ・セーヌの星」という美少女剣士に変身して戦う
- 悪人を切り捨てる場面などに容赦がない

# 無敵超人ザンボット 3

- 1977年の日本サンライズ作品
- ガイゾックに滅ぼされた異星人の末梢として地球に住んでいる神ファミリーがガイゾックの地球侵略と戦う
- 町が破壊されるため、神ファミリーは地球人たちから嫌われる
- 神ファミリーは主人公の神勝平以外は全て戦死→皆殺しの富野の由来
- 「人間爆弾」のトラウマを植え付けられた子どもはたくさんいるはず

# 無敵鋼人ダイターン3

- 1978年の日本サンライズ作品
- 主人公「破嵐万丈」という名前が作品の性格を表している
- ザンボット3の暗い内容と異なりコミカルな内容へと変化←ここ重要

# 80年代の 作品を振り返る

# 機動戦士ガンダム

- 1979年の日本サンライズ作品
- 1980年まで放送していたので1980年代作品に入れます
- 地球連邦からの独立を宣言したジオン公国との1年戦争が舞台
- 敵も同じ人間、量産型ロボット、熱血漢でない主人公という新しさ
- ニュータイプという人類の革新を示した
- 本放送は43話で打ち切り

# 機動戦士ガンダム

- 43話打ち切りであったが、バンダイよりプラモデルが発売され、再放送で人気が出たことにより映画化
- 映画は3部作で、「機動戦士ガンダム」「機動戦士ガンダムII 哀・戦士編」「機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙」として公開
- 「めぐりあい宇宙」はTV流用でなく新作カットが8割（作画監督の安彦良和がTVの途中で入院、後半の作画に不満があったため）



# 機動戦士ガンダム

- 映画の封切りに合わせ「アニメ新世紀宣言」というイベントが行われた
- 富野は「アニメは低俗なものではない」と発言し、アニメがサブカルチャーでなく、メインカルチャーになりえることを宣言
- TV「ガンダム」と同時期に放送された宮崎駿の「未来少年コナン」を「ガンダムで潰す」と発言するが、結局潰せなかった

# 伝説巨神イデオン

- 1980年の日本サンライズ作品
- **イデオン**は地球の植民星ソロ星で発見された**第6文明人の遺跡**
- バッフクランという異星人もソロ星の遺跡に無限力**イデ**を求めてやってきた
- 不幸な出会いにより戦闘が発生
- 敵も主人公たちも徐々に死んでいく
- 本放送は39話打ち切り、最終回は「そのときイデは発動した」というナレーションとともに意味不明のまま終わる

# 伝説巨神イデオン

- イデオン＝第6文明人の遺跡になったのは、富野がイデオンのデザインを見てあまりにもひどいと感じ、「これは第6文明人の遺跡です」との発言がきっかけ
- バッフ克蘭と地球人は同じ人類であり、子どもも生まるが、両者とも第6文明人の子孫という設定があったから
- サムライや武人など両者に共通の表現があるのも上記を意識したためだが、ストーリー展開上活かしていない

# 伝説巨神イデオン

- テレビの総集編「接触編」、新作部分「発動編」として映画同時公開
- 「発動編」は地球人とバッフクランの戦いが激化、憎しみの連鎖、主人公を含め全員が悲惨な死を迎え、魂が復活→皆殺しの富野の本領発揮
- 富野曰く「バカは死ななきゃ直らない」
- 富野作品の最高峰と評される
- エヴァンゲリオンの映画（最近のものでない）を見て、庵野のイデオンだと思った

# 戦闘メカザブングル

- 1982年の日本サンライズ作品
- 前作のイデオンの反省から、  
誰も死なない、ギャグ満載の内容←ここ重要
- 途中で死んだと思っていたキャラクターが最終回で生きていたとして登場
- ハンドルで動くロボット「ウォーカーマシン」
- 主人公が途中でロボットを乗り換えるという発明（ザブングルのデザインが気に入らなかったためらしい）

# 聖戦士ダンバイン

- 1983年の日本サンライズ作品
- 当時馴染みのなかったファンタジー（異世界）を導入
- 富野は「ナウシカにぶつけて、ナウシカ潰そう」と発言
- バイストーンウェルと地上との絡みは最後という予定を繰り上げ、後半は壮絶な戦いが続くことになる
- 敵も主人公たちも最後はほぼ全員死ぬ←  
皆殺しの富野の復活

# 重戦機エルガイム

- 1984年の日本サンライズ作品
- 5つの惑星が同一軌道を周回する  
ペンタゴナ・ワールドが舞台
- デザインに永野護を採用
- 主人公ダバはペンタゴナ・ワールドの支配者ポセイダルへの反乱の中核となるが、ポセイダル支配が崩れた後、妹のために引き下がる
- 主人公が途中でロボットを乗り換える
- 主人公たちは死なない

# 機動戦士Zガンダム

- 1985年の日本サンライズ作品
- 最初のガンダムから7年後が舞台
- ジオンの残党狩りを行うティターンズ、反ティターンズのエウーゴ、ジオンの残党アクシズとの三つ巴の戦い
- 主人公は途中でロボットを乗り換える
- 主人公周辺の人物はほぼ死ぬ←皆殺しの富野復活
- 主人公カミーユは最後に精神崩壊



# 機動戦士ガンダム ZZ

- 1986年の日本サンライズ作品
- Zガンダムの続編
- Zガンダムが暗い内容であったので、明るい内容を目指す
- 最初の主題歌は「アニメじゃない」
- 途中でシリアス路線へと変更
- 主人公ジュードーは途中でロボットを乗り換える
- 最終回の内容に納得できなかった

# 機動戦士ガンダム逆襲のシャア

- 1988年の映画でZガンダムの続編
- Zガンダムでクワトロ・バジーナという名前で登場し、行方不明となっていたシャア・アズナブルがネオ・ジオンの総帥として登場
- シャアは地球粛清のため小惑星アクシズを地球へ落とすことを計画

# 機動戦士ガンダム逆襲のシャア

- シャアとアムロとの最後の戦い
- クェス・パラヤという理解しがたい思考の人物登場→
- アクシズの落下をアムロは支えようとするのだが、物理的には間違い
- 戦いでシャアとアムロは行方不明になる
- 主題歌は TM NETWORK の「BEYOND THE TIME(メビウスの宇宙を超えて)」
- 最初のガンダムからの話はこれで完結

# 富野由悠季のゆらぎ

# 富野由悠季のゆらぎ

- 富野作品の特徴として、**皆殺しの富野**とそうでない富野がほぼ交互に現れる
- 「皆殺し」手法に対する自己評価がゆれている
  - もうイデオンみたいなのはやめましよう
  - ああいった美しいリーンカーネーション＝輪廻を描けた自分は死というものを素直に受け入れられるかもしれない、そういった意味ではいいものをやれた

# 富野由悠季のゆらぎ

- 「アニメの仕事をしたい」という若者に対して「アニメを見るな」「もっと文学・演劇・物語を見ろ」と発言
- 同世代である宮崎駿（共に1941年生まれ）に対するライバル心「宮崎駿を超えなかったが、結局超えられなかった」という主旨の発言をしている

# 参考文献等

- ウィキペディア「富野由悠季」
- 講談社「劇場版・機動戦士ガンダム」シリーズ
- 徳間書店ロマンアルバム「伝説巨神イデオン」
- 太田出版「イデオンという伝説」
- ラポートデラックス「戦闘メカ・ザブングル大全集」などなど
- 今日持ってきてきます、見たい人はどうぞ